

高鉄が園区に及ぼす影響への対応

台南園区は設計初期から高鉄が園区を通過するためハイテク産業に影響を及ぼす可能性があることを重視し、園区土地使用計画時、影響を受けやすい産業区を高速鉄路の配置から遠く離している。

本局は行政院国家科學委員会（以下略して国科会）委が専門業者と協力して工場周辺に各項減振装置を設置できるように、関連作業を行い、素地振動標準値に達することを目標とした。

企業が用地利用に影響しない事を前提に、本局は台南園区14ヶ所に環境微振監測ステーションを設置し、園区の現有振動量を監視測定している。

排水洪水防止機能の強化

台南園区周辺排水改善後続計画は2001年1月8日行政院の審査決定を受けた。計画には園区周辺排水システムの改善、社内、大洲、豊華等村落の堤防排水工程、大社、座駕洪水対策貯水池増設等工程を含み、総経費約15.3億台湾ドルで、本局が1.4億台湾ドル、残りは中央が支払い、工程執行は台南県政府が行い、2001年より4年にわたり実施される。台南県政府は2001、2002年にすでに大社、三舍、座駕、看西排水部分渠道の改善加高工程を完成しており、2004年末には全工程が完成する予定である。



図 2-9 洪水防止排水ステーション

2001年6月園区排水路水位ステーション、雨量ステーション及び洪水防止警報システムが完成し、水位ステーション及び雨量ステーションの監測情報を転送するため、大洲排水路門の開閉を遠隔操作し、洪水防止警報モード分析により、前もって洪水警報を發布し、園区各企業に通知して各種緊急応変措置をとれるようにしている。



図 2-10 台南園区排水路